

## 「寄付感謝の集い」で、支援を受けた学生の「生の声」で、寄付者に感謝を伝える

学校法人東京電機大学

### 【寄付感謝の集い】

学校法人東京電機大学では2014年から毎年、寄付者に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、募金活動に対する寄付者の理解を深めることを目的とした、「寄付感謝の集い」を開催しています。当初は「前年度に5万円以上寄付した個人」または「前年度に20万円以上寄付した団体・法人」を参加対象としていました。その後、寄付金額の条件を緩和し、できるだけ多くの寄付者が参加できるようにしています。2019年度までは対面形式で開催しており、毎年150名程度が参加していました。



「寄付感謝の集い」

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020～2021年度は「寄付感謝の集い」自体が中止となり、法人では、寄付者の方々に芳名録や実績報告書を送付するなどの対応になりましたが、2022年度からはオンデマンド配信で実施しています。いつでも誰でも閲覧が可能となったこともあり、2022年12月末時点で600人以上が閲覧していることから、法人としては「寄付感謝の集い」が募金活動の広報にもつながっていると考えています。

2022年度のプログラムは、

- ① 担当理事によるサポート募金の概要説明（使途、受け入れ件数・金額など）
- ② 寄付によって実施した教育研究、公開講座などの地域連携の取り組み紹介
- ③ 募金事業の実績報告
- ④ 学生からのお礼の言葉（寄付者に対する感謝）
- ⑤ 「東京電機大学神山治貴海外留学派遣奨学金」（技術力と英語力を兼ね備えた人材の育成に対する支援）についての説明と、この奨学金を利用した学生からの報告
- ⑥ 中学校・高等学校の施設設備の充

実に対する支援などの説明

- ⑦ 課外活動への支援
- ⑧ 理事長の謝辞
- ⑨ 寄付方法の説明
- ⑩ 寄付者一覧の掲示  
となっております。



「寄付感謝の集い」オンデマンド配信のページ

### 【学生の「生の声」で感謝を届ける】

「寄付感謝の集い」における一番のポイントは、学生の「生の声」で寄付者に直接感謝を伝えることです。学生の代表が、寄付者に対し寄付への感謝の言葉とともに日頃の活動内容や成果寄付金の使途を報告しています。

寄付者は、自らの寄付が学生の支援に充てられることで学生が充実した大學生生活を送ること、教育研究活動に役立つことを強く望んでいます。

そのため、多くの寄付者は、学生の「生の声」を楽しみにしています。対面形式で「寄付感謝の集い」を開催していた際には、寄付者から、感謝のスピーチをした学生に向けて大きな拍手が送られていました。学生のために寄付金が使われているという実感を寄付者に持つってもらうことは、次の寄付へのモチベーションにつながります。そのため、学生の「生の声」で届けるパート④は、プログラムの前半に設定されています。現理事長は、自らの謝辞などをプログラムの終盤に移動させてでも、まず学生の声を寄付者に聞いてもらうことを優先しています。このように、法人では寄付者の満足度が高い形で「寄付感謝の集い」を開催することにより、さらなる寄付の増加を目指しています。

また、オンデマンド配信となつてからは、学生の声を動画で寄付者に伝えています。動画はすべて学生自身が作成しているため、学生の声がより自然なものになり、法人の担当者が驚くほどよく作りこまれています。

### 【募金事業の概要】

① 学校法人東京電機大学サポート募金  
同法人では2013年、「学校法人東京電機大学サポート募金」（以下、サポート募金）を創設しました。それまではキャンパスの創設募金（神田キャン

パスから東京千住キャンパスへの移転に伴う募金 という形で募集していましたが、安定的な収入源の確保を目的に、使途を指定した恒常募金として新たに設置しました。大きく分けて4つの使途「奨学金、課外活動、施設・設備、その他」が設定されています。この4つからさらにキャンパスごと（東京千住キャンパス、埼玉鳩山キャンパス、東京小金井キャンパス）に細かく指定して寄付を行うこともできます。

法人では、「サポート募金委員会」を設置しています。同委員会は、募金事業の計画策定や教員からの意見集約の場となっていて、寄付金の使途に関する相談や募金の目的などに関し様々な意見交換を行っています。使途については、より柔軟に選択できるよう、法人としてさらに検討を進めています。

2016年以降はインターネットからの寄付も受け付けています。また、クレジットカード決済と口座振替においては、継続募金を「毎月」「3か月ごと」「6か月ごと」「1年ごと」の4パターンから選択することができます。法人では、クレジットカードから寄付する人が最も多いため、継続募金を選択可能であることは、寄付のリピーター増加につながっていると考えています。

## ②TDU本deサポート募金

サポート募金においては、寄付者の層の拡大を目的とした古本募金「TD

U本deサポート募金」も実施しており、ホームページから申し込むことができます。法人に寄付を希望する方の中で、読み終えた本や聴かなくなったCDなどがある場合、法人の委託先業者に送ることで、買取相当額が寄付金として法人に入金される仕組みとなっております。

## 【募金活動】

卒業生に対し、校友会会誌『工学情報』を年2回送付しており、うち年1回は必ず寄付の案内を同封しています。また、大学生の保護者に後援会会誌『学苑』を送付する際に、寄付の案内を年2回同封しています。会誌と一緒に寄付の案内を同封することで、広報活動のコスト削減にもつながっています。

また、新型コロナウイルス感染症が蔓延して間もない2021年度には、卒業生8〜9万名にダイレクトメールを送付し、コロナ禍で苦しむ学生を支援したいという多くの寄付者の共感を得て、卒業生からの寄付件数は前年度の2.5倍以上に増加しました。その後もダイレクトメールによる寄付の呼びかけを続け、卒業生からの寄付件数はコロナ禍前よりも高水準が続いています。また、校友会がホームカミングデーなどの案内を配付するタイミングや毎年4〜6月に開催される同窓会の総会に合わせてダイレクトメールを送付することにより、寄付が増える傾向があり

ます。担当者としても、ダイレクトメールを送付する月の方が送付しない月よりも寄付件数が多いこと、ダイレクトメールで寄付の案内をするとすぐに寄付が寄せられることなど、効果の高さを実感しています。

企業等に対して募金活動を行う際は、単に寄付を依頼するだけではなく、「法人として何かできることはないか（教育研究で貢献できることはないか）」という姿勢を明確にしています。このような姿勢により、共同研究や就職活動の情報提供など、法人と企業とのつながりを生み、さらなる寄付の増加のきっかけになります。今後は研究推進社会連携センター（CRC）とも連携して、産学連携や企業への寄付の呼びかけを強化していく方針です。

## 【寄付者の顕彰】

法人では、寄付累計額を基準とした寄付者顕彰制度を設け、個人寄付者に称号を授与しています。100万円以上は「寄付賛助員」、500万円以上は「寄付名誉賛助員」、1千万円以上は「寄付栄誉賛助員」となっています。これらに該当する寄付者には、学内諸行事等への招待や記念品贈呈などの形で寄付への感謝の気持ちを示しています。

また、寄付者銘板による顕彰も行っています。銘板の前で写真撮影を行う寄付者もみられ、銘板は寄付者にとつ

て、法人への貢献の象徴としての役割を果たしています。さらに、卒業生の名前が掲載されている銘板を見た他の卒業生が、寄付に関心を持つという効果もあります。「銘板に名前が掲載されるにはどのくらい寄付すればいいのか」という卒業生からの問合せも多く、銘板は寄付のモチベーションになり、寄付者の裾野を広げるといった効果もあります。

称号授与の他に、累計100万円以上の寄付者は、氏名がホルルの座席に刻まれるなど、学内施設のネーミングライツを獲得することができます。2023年現在、ネーミングライツによって命名された施設としては、丹羽ホール、カシオホール、神山記念ラウンジ、松本記念学習ホール、井上記念学生ラウンジ、福田記念セミナー室があります。各施設の銘板には、いずれも寄付者の輝かしい功績が刻まれています。